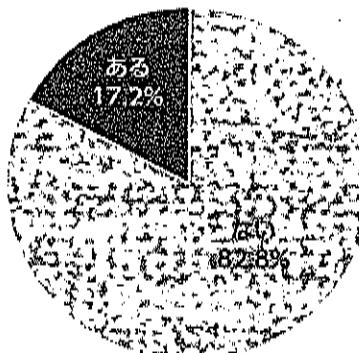


75歳以上の医療費窓口負担倍加

経済的理由による受診控え
(75歳以上の2割負担・年収200万円以上)



(保団連が実施した2割負担による「受診暮らし実態調査」から)

一定所得以上の後期高齢者(75歳以上)の医療費窓口負担割合が昨年10月、「1割からの割り引き」に上がられながら半年余りがたちました。「2倍化」以降、予期していなかった医療費の増加で困った高齢者が増えています。

(田中真里)



高木忠彦さん

高木忠彦さん「2倍化」で困った

事例	年齢
がんの手術で7万円ほどかかった。保険はすすめの添。1割のときがよかったです。	86歳
夫は定期的に通院。薬代などは倍に。年金だけでは心配。私は少し受診を減らしている。	82歳
夫婦で医療費を生活費から支出しなければならなくなり大変。	77歳
1割負担で精神的に気持ちが楽になったところ、2割負担になり納得がいかない	75歳

収入の1割に

「あさか2倍化の直後に入院するといつも思っていなかつたので驚きました」

昨年1月に75歳になり、「1割負担の保険証が届き、間もなく2倍化の保険証が届きました」と話す。

高木忠彦さん(75歳)は、2005年1月に「2倍化」の対象となりました。2月には、2割負担の高木忠彦さん(76歳)は、2005年10月に「2倍化」の対象となりました。

神奈川県藤沢市で一人暮らしをする高木忠彦さん(76歳)は、「2倍化」の対象になってしまった。昨年10月上旬、肺炎で入院。一時は人と会話をすらむこ

も出来ないほど容体が悪化しました。その後にはコロナに感染。院内では

「絶縁料と薬代の額面を見て

思わず『えっ』と頭をあわせし

ました。2割負担でこんな

会話をされると困りました。

「絶縁料と薬代の額面を見て

思わず『えっ』と頭をあわせし

ました。2割負担でこんな